

【硬質ビニル電線管(J管)&付属品の施設場所、施工要領】

- 合成樹脂管配線は、重量物の圧力または著しい機械的衝撃を受ける場所に施設してはならない。ただし、適切な防護装置を施す場合は、この限りではない。
- コンクリート内への埋設は、重量物の圧力または著しい機械的衝撃を受ける場所とはみなさない。
- 周囲温度が高い場所(連続60℃以上となるところ)での使用は避けください。
- 管及び付属品には、ある種の有機化合物、例えば、アセトン、シンナー、クレオソート、殺虫剤、白アリ駆除剤、消毒薬、塗料など管及び付属品の材質に悪影響を及ぼす物質を吹き付けたり、塗ったりしてはならない。
なお、上記の物質が直接管に接触しない場合であっても、例えば、管が浅く埋設されている場合、上記の物質を地面にこぼすと、地中に浸透することによって、管が侵される場合があるので注意しなければならない。
- 温泉地・浄水場など硫化水素などの無機化合物にさらされる環境では、製品表層が黒く変色する恐れがあります。
- ボックスは壁面にビス等で取り付けてください。
※防水タイプはコーキング等で処理してください。

電気設備技術基準解釈第158条の「合成樹脂管工事」及び、内線規程3115節の「合成樹脂管配線」その他関連法規に準じて施工してください。

■施設場所

施設場所		低圧回路(600V以下)		弱電流電線※1	防災設備回路
		絶縁電線(IV線)	ケーブル		
埋設	コンクリート内	○	○	○	所轄の消防署の御指示に従ってください。
	地中内	×※2	○	○	
露出	屋内・隠蔽	○	○	○	
	屋外	○	○	○	

〔※1〕小勢力回路は除く。
〔※2〕地中電線路に絶縁電線は使用できません。(電技・解釈120条)

⚠ 注意：高圧配線での使用については、接触防護措置を施す等、設置場所に
応じた施工をお願いします。

■管の太さの選定

●合成樹脂管工事(絶縁電線使用)

電線太さ		電 線 本 数									
単線 (mm)	より線 (mm ²)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
硬質ビニル電線管の最小太さ(管の呼び)											
1.6		14	14	14	16	16	22	22	28	28	28
2.0		14	16	16	16	22	22	28	28	28	36
2.6	5.5	14	16	16	22	22	28	28	28	36	36
3.2	8	14	22	22	28	28	36	36	36	36	42
	14	14	22	28	28	36	36	42	42	54	54
	22	16	28	36	36	42	42	54	54	54	70
	38	16	36	42	54	54	54	70	70	70	70
	60	22	42	54	54	70	70	70	82	82	
	100	28	54	70	70	82	82				
	150	36	70	70	82						
	200	42	70	82							
	250	42	82								

※内線規程3115節-4(管の太さ)による。

- ケーブル工事の場合は、使用するケーブルの仕上り外径の1.5倍の内径を有する管をご選定ください。
※ただし、配管が短小で屈曲がなく、ケーブルの引き換えが容易な箇所に限っては、ケーブル仕上り外径の1.5倍未満のものを使用しても差し支えありません。
(内線規程3165節)

品 番	管内径(mm)	適合ケーブル外径(mm)※
VE-10	10	～ 6.5
VE-14	14	～ 9
VE-16	18	～ 12
VE-22	22	～ 14.5
VE-28	28	～ 18.5
VE-36	35	～ 23
VE-42	40	～ 26.5
VE-54	51	～ 34
VE-70	67	～ 44.5
VE-82	77	～ 51
VE-100	100	～ 66.5

※最大適合ケーブル外径＝管内径/1.5

■PS該当品について

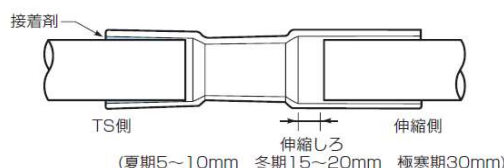
- 電線管システムの分類コード(JIS C8461-1より)
 - 管：43211230X310
 - 付属：X32X1230X310
 - 伸縮カップリング：X32X1230X010
- 製品の径・電線管システムの最小径

サイズ	電線管システムの最小径
14・14S	13.2
16・(16S)	17.2(15.2)
22	19.7
28	25.5
36	33.5
42	38.4
54	49.3
70	65.3
82	75.5

■施工要領

●管の敷設

- 管を造営材に取り付ける際の支持点間の距離は1.5m以下となりますが、露出場所に於いては、夏季の気温の上昇による撓みを考慮し、50～100cm間隔にてサドル等を用いて止めてください。尚、管端、管とボックスとの接続点及び管相互の接続点は30cm以内で止めてください。
- 管の曲げ加工は加熱温度を120～130℃としてください。管を回しながら、トーチを管長手方向にゆっくりと上下させて、広範囲を満遍なく炙ってください。炙りすぎると管表面が融解して泡状の盛り上がりが出てしまうことがありますので、注意してください。
※ミライの硬質ビニル電線管(J管)は焦げにくい管です。
- 曲げ半径は管内径の6倍以上となるようにしてください。
- 硬質ビニル電線管と差し込み接続する付属品は、硬質ビニル電線管用接着剤をご使用ください。
※接着固定した場合は分解できません。
- 管の熱膨張係数は、 $6\sim8\times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$ で金属管の約6倍であるため、温度変化による管の収縮を考慮し、直線8m程度毎に伸縮カップリングを使用してください。※下記「ご注意」もご覧ください。
- 伸縮カップリングの伸縮側の接続とは、ルーズ接続とし、施工時の気温を考慮し差し込み深さを決めてください。



ご注意 濃色の製品及び濃色塗装した製品は、夏期日中時等において高温となり変形する恐れがありますので施工には十分ご配慮ください。ここに記載している事項は一般的な施工要領です。現場毎に他の施工基準がある場合はそちらに従ってください。やむをえず屋外に保管する場合はシート掛け等で直射日光を避けるとともに熱気がこもらないように風通しのよい状態に保ってください。

VE管 屋外用サドルの性能相対比較

